

(セミナー名称)		
2020年度第1回山形県がん化学療法セミナー		
担当者氏名：富岡佳久		所属：大学院薬学研究科 がん化学療法薬学分野
内線： (795)6851	e-mail：	
1. 計画の名称		
2020年度第1回山形県がん化学療法セミナー		
2. 関連分野		
がん化学療法		
3. 実施報告		
<p>2020年11月29日に2020年度第1回がん化学療法セミナーを開催した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、本セミナーはWeb開催となり事前申込後に各自聴講する形式で実施した。</p> <p>特別講演Ⅰとして、山形大学医学部附属病院薬剤部 副部長 志田敏宏先生から「プラチナ感受性再発卵巣がんに対するオラパリブの遺伝子診断による薬剤経済評価」と題してご講演頂いた。また、特別講演Ⅱでは、山形大学医学部産科婦人科学講座教授 永瀬智先生から「卵巣がんに対する化学療法 ～最近の話題～」と題し、ご講演頂いた。</p>		
4. 実施年月日・実施担当者・参加人数		
<p>2020年11月29日(日)</p> <p>東北大学 大学院薬学研究科 がん化学療法薬学分野 教授 富岡佳久</p> <p>47名が参加</p>		
5. 所要経費		
支出簿参照		
6. 成果		
<p>特別講演Ⅰでは、山形大学医学部附属病院薬剤部 副部長 志田敏宏先生から「プラチナ感受性再発卵巣がんに対するオラパリブの遺伝子診断による薬剤経済評価」と題し、癌治療学会優秀演題賞を受賞された研究について講演頂いた。薬剤経済学の基本的な考え方から日常の具体例をもとに説明頂いた後、プラチナ感受性再発卵巣がん、オラパリブ、遺伝子診断をキーワードとしたオラパリブ使用の経済評価について拝聴した。医療経済という今後重要となる分野の講演を拝聴する貴重な機会となった。</p> <p>特別講演Ⅱでは、山形大学医学部産科婦人科学講座教授 永瀬智先生から「卵巣がんに対する化学療法 ～最近の話題～」と題しご講演頂いた。日本婦人科腫瘍学会ガイドライン委員会委員である永瀬先生に、本年改訂となった卵巣がんの治療ガイドラインについて、変更となった経緯・エビデンスを踏まえてご講演頂いた。自施設での初回化学療法の治療方針や再発時の治療戦略、また遺伝子パネル検査の検討会（エキスパートパネル）実施の卵巣がん症例についてもご講演頂いた。Web開催と慣れない環境ではあったが、自身の知識の整理ができた有意義な研修会であった。近年は外来で化学療法を施行する患者が増えている。そのような患者をフォローしていくためには、多職種による連携や情報共有が重要であることが再認識できたセミナーであった。</p>		